

## 環境教育への気候学的アプローチ

### ——小・中学校校歌詞と地域性——

愛知教育大学地理学教室 大和田 道 雄  
名古屋市立大高中学校 加 藤 元 子  
名古屋ピアノ調律センター 菅 政 子  
ヤマハ音楽教室 大 高 恵 子  
豊川市立東部中学校 藤 井 裕 士

(昭和59年12月25日受理)

#### I ま え が き

小・中学校の校歌詞は、その内容を分析してみると、それぞれの学校周辺の自然的・社会的風土を反映していることが多い。一校校歌詞がなんのために、どのような目的をもって作られ、児童・生徒によって歌われてきたのかを深く考えたことはなかった。しかし、どの学校にも必ずと言ってよいほど校歌は存在しているのである。そして、歌い継がれているのである。校歌詞と文部省唱歌との違いは、文部省唱歌が我が国において一般的に通用し、誰にでも歌われているのに対し、校歌詞は、その学校だけ、また、その地域のその学校を出たものだけに限られているということである。したがって、卒業生のクラス会等では、その昔をなつかしみ、また、幼き頃の思い出の意志の統一として校歌を唱うのである。ここでは、小・中学校時代の思い出、すなわち学舎を中心とした地域の風景や、精神的結びつきが思い出されているのに他ならないのである。

また、学区は社会における最小のコミュニティーの空間であり、小・中学生の地理学的的感覚の範囲でもある。通学途中に見える山や川、あるいは街並みや工場の煙突等、これらすべての自然的・人文的・精神的語句が挿入されているのが校歌詞なのである。校歌詞は、まさにその地域の故郷を唱った歌なのである。

そこで本研究は、愛知県の小・中学校を対象地域として、校歌詞に含まれる語句の挿入率を計算し、その地域性とのかわり合いについて明らか

にしようとした。また、愛知県の小・中学校校歌詞が、地域性を反映しているかどうかの確認は、すでに大和田・菅(1982)が気象用語の挿入率から明らかにした。そこで本研究では、小・中学校校歌詞が、気象用語だけでなく、人文的・自然的、および精神的にも地域的傾向が出てくるであろうことを前提にして論を進めていくことにする。

#### II 資料および整理方法

資料は、東洋経済出版社から出されている「愛

表1 愛知県の地形別地域分類

地形別分類	郡	市
I 山	北設楽郡 南設楽郡	東加茂郡
II 平野	一宮市 丹羽郡 西春日井郡 津島市 豊明市 安城市	葉栗郡 尾西市 岩倉市 中島郡 大府市 知立市 小牧市 江南市 稲沢市 尾張旭市 刈谷市
III 海	東海市 知多市	半田市 常滑市
IV 山・平野	犬山市 豊川市 額田郡	愛知郡 岡崎市 豊田市 新城市 西加茂郡
V 山・海	蒲郡市	渥美郡
VI 平野・海	西尾市 名古屋市	碧南市 海部郡 高浜市 知多郡
VII 山・平野・海	宝飯郡	幡豆郡

知の学校・校歌詞総覧」(1980)を使用した。しかし、必ずしも全校が掲載されているわけではないので、できるだけその数を増やすため、各学校から送っていただけるよう努力した。その結果、愛知県の小・中学校数約1,350校あまりの中で、約820校を収集することができた。以下はこの収集した校歌詞を分析したものである。

表1は、収集した学校の所在する郡市を地形別分類表にあてはめたものである。まず、山間部としては北設楽郡・南設楽郡・東加茂郡の3郡であり、学校数は7校である。また、平野部に位置する郡市は、一宮市・小牧市・豊明市・安城市をはじめとする17の郡市であり、学校数は198校に達する。さらに、海に面する地域としては、東海市・半田市・常滑市・知多市の4市を選定した。この4市の中で資料の得られた学校数は48校であった。以上、これらの典型的な地形的特徴を持った郡市の他に、2つ以上の地形的要素、すなわち、山と平野の両方の要素を持つ郡市としては、犬山市・岡崎市・豊田市をはじめとする8郡市157校であ

る。また、山と海では蒲郡市・渥美郡21校、平野と海では西尾市・名古屋市をはじめとする6郡市362校、および山・平野・海といったあらゆる地形的要素を持つ宝飯郡・幡豆郡23校の合計42郡市816校の校歌詞から語句を抽出し分類した。

分類した語句は、表2に示すように、(I)人文的環境、(II)精神的環境、(III)自然的環境の3分類し、自然的環境に関しては、さらに地形環境と気候環境に細分類した。この中で人文的環境は、都会・町・村・工場等の16の語句を抽出した。また、校歌詞中に最も多く含まれる精神的語句は、文化・平和・希望・未来をはじめとする42の語句をあらかじめ選定して抽出した。しかし、この中で「光」・「空」・「波」といった自然的環境を反映しているような語句を精神的環境に含めたのは、その校歌詞の流れが、「希望の光」「希望の波」と使われていたからである。したがって、ただ単に語句を抽出するだけでなく、歌詞をよく理解しながら分類していった。さらに、自然的環境としては、まず地形では当然のように山・川・海を

表 2 校 歌 詞 語 句 分 類

	都 会	町(街)	村	城	塔
I 人 文 的 環 境	鐘	神・寺社	工 場	煙 突(煙)	田
	畑	学び舎(校庭)	窓	道 路	港
	鉄 道				
II 精 神 的 環 境	文 化	世 界	平 和	希 望	未 来
	生命(命)	正 義	真 理	理 想	ひ と み
	心	夢	歌	元 気	友 (友情)
	力	血 潮	明 日	ふ る 里	喜 び
	の び る	素 直	たくましく	励まして	学ぶ(勉強)
	光	きたえる	嵐	空	波
III 自 然 的 環 境	風 雪	強 い	楽 しい	明 る い	正 しい
	歴 史	伝 統	仲 よ く	が ん ば る	自 由
	愛 道				
・ 地 形	山(峰)	河 川	海(潮)	丘	平野(野)
	池・湖	森 林	浜・岬	島	坂
・ 気 候	谷	地 下 水			
	空	雲	寒 風	海 風	他 の 風
	お ろ し	雨	光(太陽)	雪	霧
	霜	嵐	星	月	か す み

はじめとする12の語句、また気候では、雲・霧・おろしをはじめとする15の語句を抽出したのである。

次に表したのは、人文・精神・自然の各語句を多く含む代表的校歌詞を、名古屋市を例にしてあげたものである。

#### 人文に関する語句の多く含まれた校歌詞例

- 1 車のひびき 船の音  
中川運河 にぎわいて  
工業都市の 名も高く  
栄ゆく町の 一角に  
 建つわれらの学び舎は  
 学風高く かおりつつ  
 名古屋市立露橋小学校（中川区）

#### 精神に関する語句の多く含まれた校歌詞例

- 1 風が流れる さわやかに  
明るい校舎に学びの日々が  
 遠い未来の 夢を呼ぶ  
 みんな元気で励ましあって  
楽しい学校 新栄  
 名古屋市立新栄小学校（中区）

#### 自然に関する語句の多く含まれた校歌詞例

- 1 緑の松の 西山の  
峯の続きが抱くような  
 広い斜面の中段に  
朝日をあびて そびえたつ  
 おお わが学校 豊が丘  
明德の森に 残された  
 あたたかい心 通わせて  
 みんな仲よく 手をつなぎ  
 今日もたのしく くぐる門  
 名古屋市立豊が丘小学校（名東区）

### Ⅲ 愛知県における校歌詞と地域性

#### 1. 愛知県における小・中学校校歌詞と地域性

図1は、愛知県の小・中学校校歌詞における自然・人文・精神的語句の校歌詞への挿入率と代表的な地域との関係を明らかにしたものである。選定した郡市は、表1に示したように、山間部の学校として北・南設楽郡と東加茂郡、盆地的要素を持つ

豊田市、平野部の代表的な一宮市、半島の渥美郡、および海岸部に位置する日本の3大都市の1つである名古屋市を選定した。これらの郡市を選んだのは、愛知県の中でも代表的な特徴を持つものであり、この中に含まれる小・中学校は、自然的・社会的立地条件が異なることから、校歌詞の中にもそれが反映されていると考えたからである。

この図から、どの地域にも共通して言えることは、自然と精神に関する語句に比較して人文に関する語句の挿入率が低いことである。特に山間部の郡では、10%にも満たない数字となっている。これは、自然的な環境に恵まれた地域であるため、工場とか街といった人文的な語句が含まれないのは当然かも知れない。これに対し、大都市名古屋は、自然や精神的語句の挿入率には及ばないものの、選定した郡市の中では最も高い値を示している。しかし、反面、自然的語句の挿入率は、都会ということもあってか、29%と最も少ないことはその裏返しとも言えるであろう。ただ興味あることは、自然的語句が最も多く挿入されているのが一宮市であることである。一宮市の自然的語句の挿入率は、三河山間部の北設楽郡・南設楽郡・東加茂郡の42%を上回る45%にも達している。しかし、その反面、精神的語句の挿入率は40%と、最も低い値となっている。精神的語句の挿入率の高い郡市は、名古屋市がトップであり、51%を示す。これは、自然的環境に恵まれていない分だけ精神的語句を中心とした校歌詞作りが行われたものと思われる。すなわち、校歌詞は、その学校周囲の環境をふまえ、強い精神的・社会的、および肉体的向上をはかることを目的として作詞されているからである。

#### 2. 校歌詞の分類別挿入率の地域的特徴

##### (1) 人文に関する語句の地域的特徴

図2は、表1の地形分類に基づいたⅠ～Ⅶまでの地域における人文に関する語句の上位5番目までの挿入率を表したものである。その結果、人文に関する語句の中で最も多く挿入されていたのは、「街」・「田」・「窓」・「学び舎」・「鐘」であった。この中で、特に挿入率の高かった語句は「学び舎」であり、Ⅰ（山）では67%にも達している。次いでⅤ（山・海）の63%、Ⅳ（山・平野）の58%の

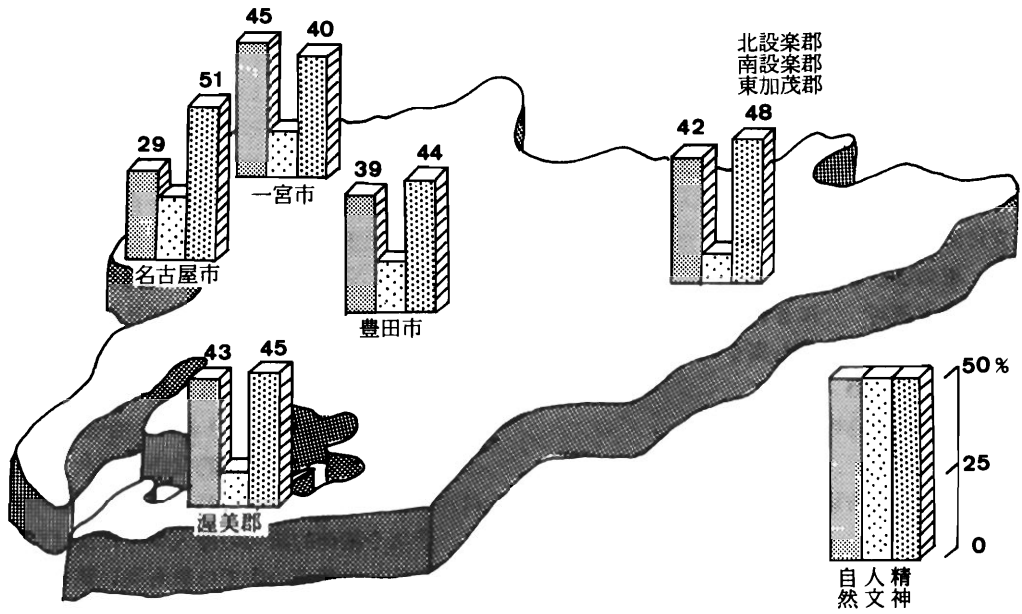


図1 愛知県の小中学校校歌詞に含まれる自然・人文・精神に関する語句の割合(%)

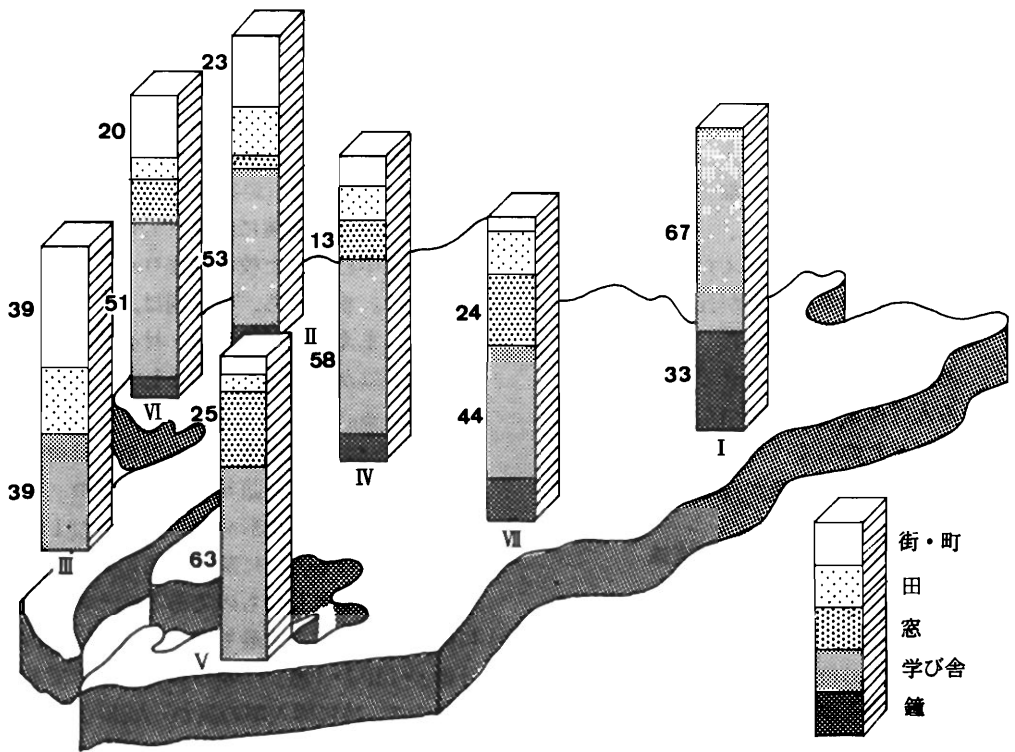


図2 愛知県における校歌詞の人文に関する語句の割合(%)

順となっている。2番目に多く挿入されているのが「街(町)」であり、地域性が著しく現れる。Ⅲ(海)・Ⅵ(平野・海)・Ⅱ(平野)ではいずれも20%以上を示すが、Ⅰ(山)の地域では0%である。これは、やはり都市部に多く含まれるのが当然の語句だからであろう。これに対し、「鐘」の語句は、半島部ではまったく含まれていないのに対し、Ⅰ(山)では33%も挿入されていることはおもしろい事実である。

(2) 精神に関する語句の地域的特徴

人文に比較して著しく多かった精神に関する語句の挿入率の地域分布を図3に示す。精神に関する語句は、その範囲も広く、上位5番目までを選定すると、「伸びる」・「明るい」・「希望」・「心」・「学ぶ」であった。図からも明らかなように、それぞれの語句の挿入率にさほど大きな違いは見られないが、あえてその特徴を探るならば、「希望」と「学ぶ」である。「希望」の語句は、どの地域においてもほとんど20%以上を占めているようである。その中で、特に高いのがⅦ(山・平野・海)

とⅠ(山)の三河山間部であり、30%以上を示す。これに対し、「学ぶ」の語句は、これらの山間部よりは平野・海といった都市部を中心とした地域、すなわちⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの地域に多く挿入され、特に知多半島では38%、次いで名古屋市は26%の順となっている。この傾向からみると、愛知県の尾張部は、学習意欲を特にかり立てる校歌詞のようである。

(3) 自然に関する語句の地域的特徴

まず、地形に関する語句の挿入率の割合を図4に示す。地形に関する代表的な語句は、「海」・「丘」・「平野(野)」・「川」・「山」であった。これらの語句の割合は、精神的語句とは異なり、かなり地域の自然環境と密接な関係を持っている。例えば「川」の語句は、山間部と平野部に多く挿入されており、特にⅠ(山)においては47%にも達している。また、矢作川が流れるⅣ(山・平野)の豊田市では34%、庄内川のある名古屋市では21%の挿入割合である。これに対し「海」は、Ⅲ(海)・Ⅵ(平野・海)・Ⅴ(山・海)・Ⅶ(山・平野・海)

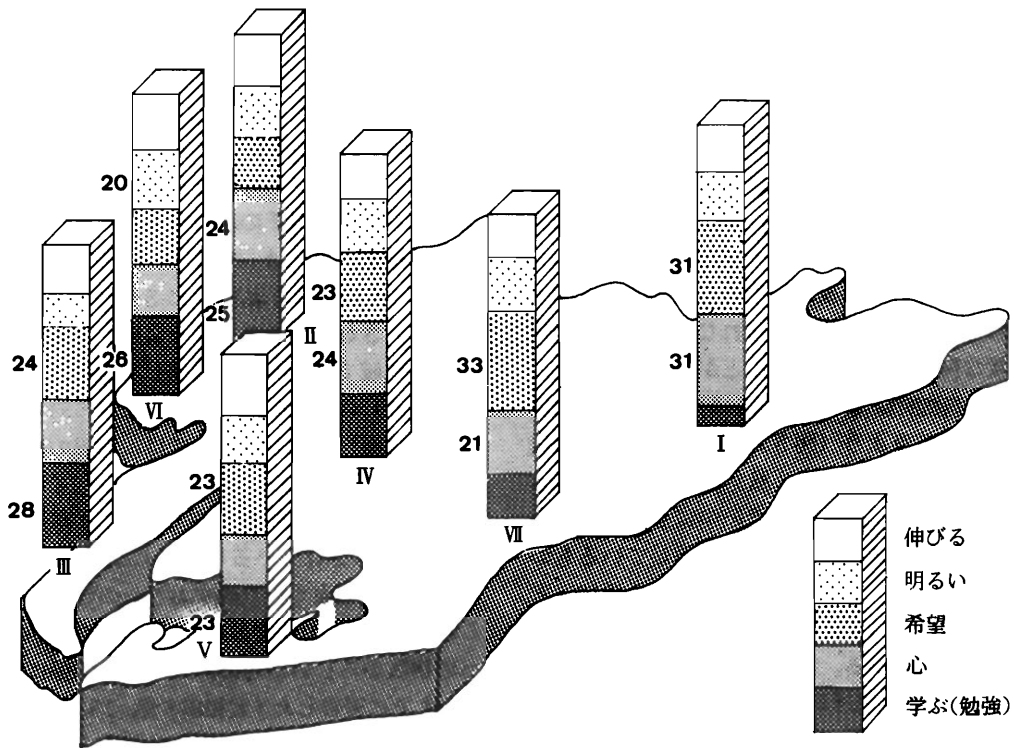


図3 愛知県における校歌詞の精神に関する語句の割合(%)

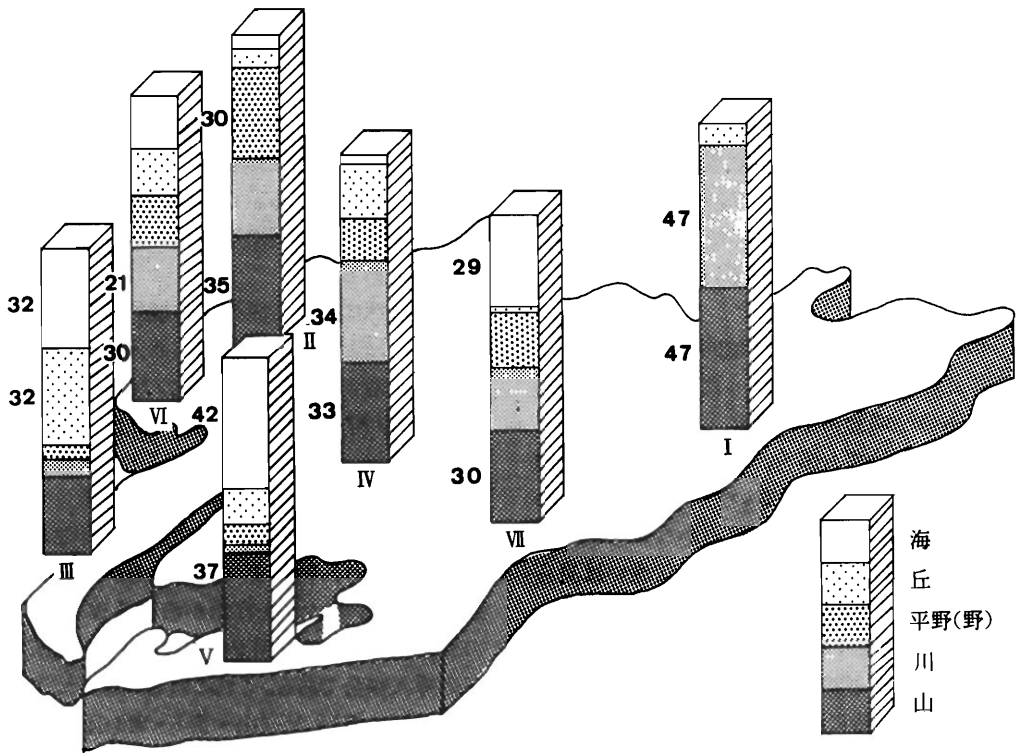


図4 愛知県における校歌詞の地形に関する語句の割合(%)

といった海に面した地域の学校に多く挿入されている。特に渥美半島では、42%にも達しており、その学校の地域性を如実に反映していることがわかる。この傾向は山間部の学校（I）で「山」の語句が47%も挿入されていること、また平野部（II）の「平野」が30%と挿入率が高いことと同じである。すなわち、校歌詞中の自然に関する挿入語句は、人文や精神には見られないほどの地域性と密接な関係を持っていることがわかる。

次に、自然的環境の中で気候に関する語句の割合についてみてみよう（図5）。代表的な挿入語句は、「空」・「光」・「雲」・「風」・「雪」であった。これらの語句は、精神的環境の中にも含まれていたが、ここでは純粋に自然環境を現しているもののみを選択した。しかし、地形に関する語句ほどの地域性はみられず、ほぼ同様な割合で挿入されていることがわかる。あえてその特徴を見つけ出すならば、「光」と「風」であり、大都市の位置する愛知県西部に比較して東部の山間部では「光」の挿入率がわずかに高く36%である。また、「風」

に関する語句は、どの地域においても30%前後であるが、特にIII（海）では35%、次いでVII（山・平野・海）の31%の順で挿入されている。しかし、風に関しては、いろいろな風の種類が見られたので、さらに図6にその細分類を表した。

その結果、風には「寒風（おろし）」と「海風」、および「その他（そよ風）」に3分類できる。最も多く挿入されているのが「そよ風」であるが、特にIVの地域では、94%にも達している。次いで平野部（II）の78%の順である。これに対し、海岸部のIII（海）・V（山・海）では、海風の挿入率が「そよ風」を上回り、50%前後を示している。さらに、この地域の特徴的なことは、「寒風（おろし）」が挿入されていることである。愛知県は、この地方に冬季強く吹く伊吹おろしの影響を受けることが多い。この伊吹おろしと、尾張地方の校歌詞への伊吹おろしの語句の挿入率との関係については、すでに報告した（大和田・菅, 1982）ように、この地域の生活風土とは密接な関係をもっている。この図から、他の風に関する語句に比

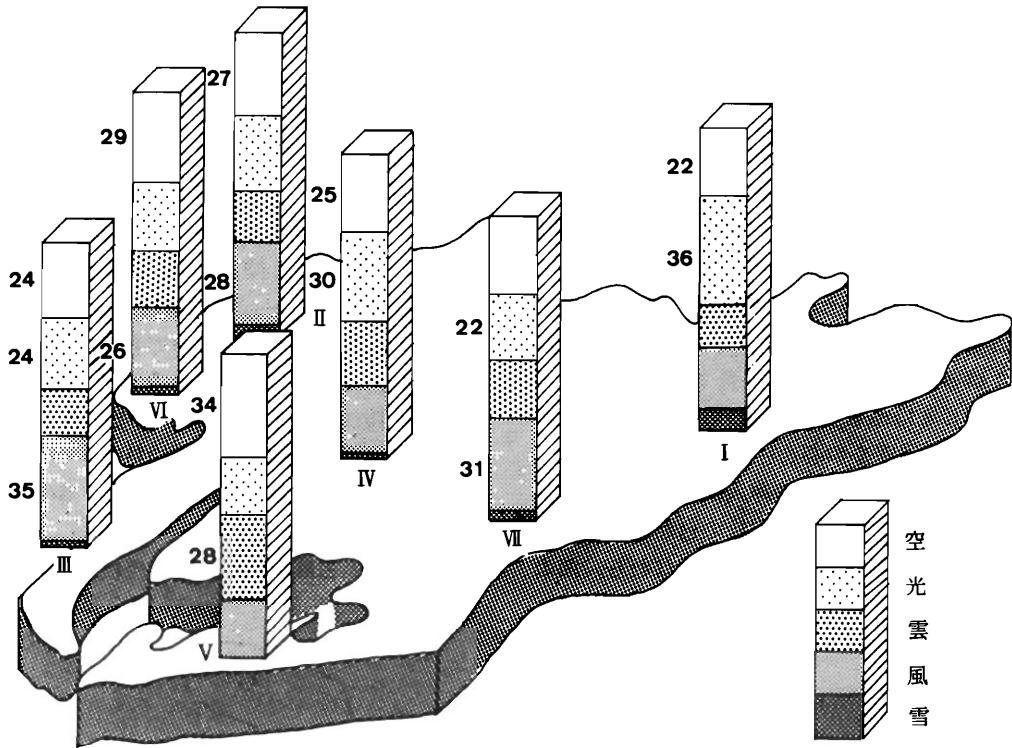


図5 愛知県における校歌詞の気候に関する語句の割合 (%)

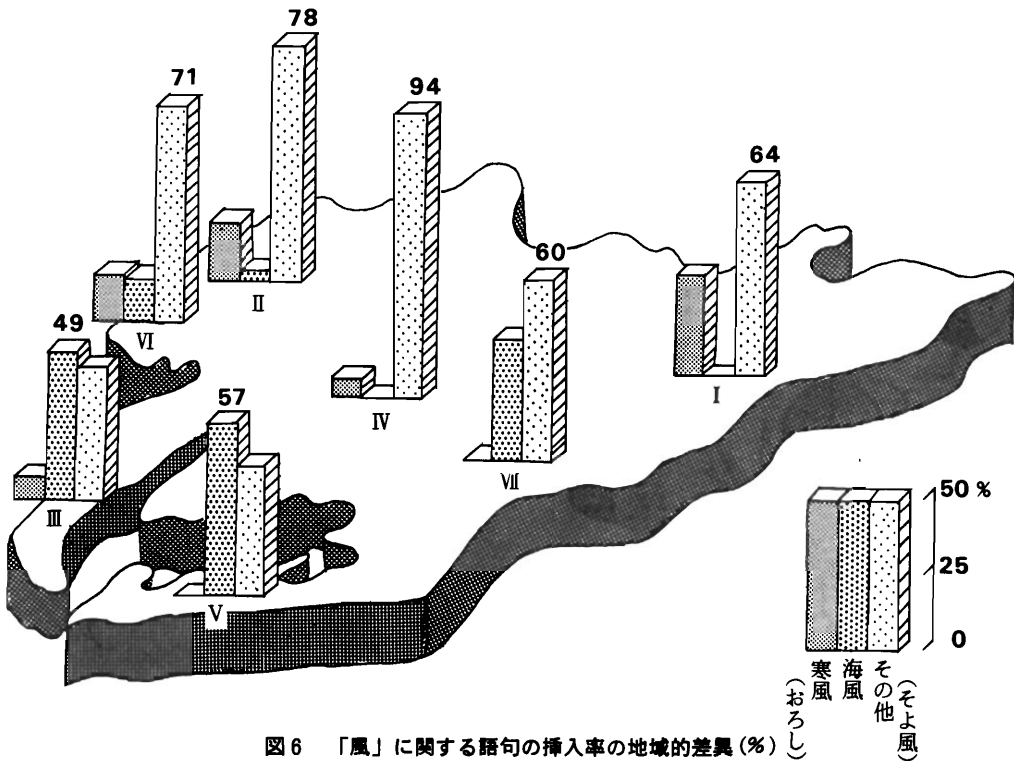


図6 「風」に関する語句の挿入率の地域的差異 (%)

較して、圧倒的に挿入率は少ないが、その中でも愛知県西部のⅡ(平野)とⅥ(平野・海)では、20%近くの挿入率を占める。

以上のことから、愛知県における人文・精神・自然に関する小・中学校校歌詞への挿入率とその地域の特徴は、精神・自然に比較して挿入率の少ない人文に関する語句の中で、「学び舎」の挿入率が山間部で最も高く、また、「街(町)」は大都市名古屋に高く現れた。さらに、挿入率の最も高かった精神に関する語句の割合では、「希望」の語句に関しては地域性が見られなかったが、「学ぶ」に関しては尾張部を中心として高い傾向にあった。また、自然に関する語句の挿入割合は、地形と気候に分けて分類したが、各学校の自然的環境と密接な関係にあることがわかった。すなわち、海の

近くでは「海」、川が近くを流れている学校では「川」、山間部の学校では「山」の語句の挿入率が高かった。また、気候に関しては、山間部の学校が「光」の挿入率が高く、「風」に関しては地域性が見られなかった。しかし、「風」の語句を細分類すると、平野部では「そよ風」、海岸部では「海風」といった語句が多く挿入され、尾張部では「おろし」の挿入率が高かったのは興味ある事実である。

そこで、今度は愛知県の中でも特に学校数が多く、また、これまでの研究の中で都市型の校歌詞の傾向を持つ大都市名古屋について分析してみる。

### 3. 名古屋市在校歌詞と地域の特徴

#### (1) 名古屋市における行政区別小・中学校校歌詞の地域性

図7は、名古屋市の小・中学校校歌詞に含まれる

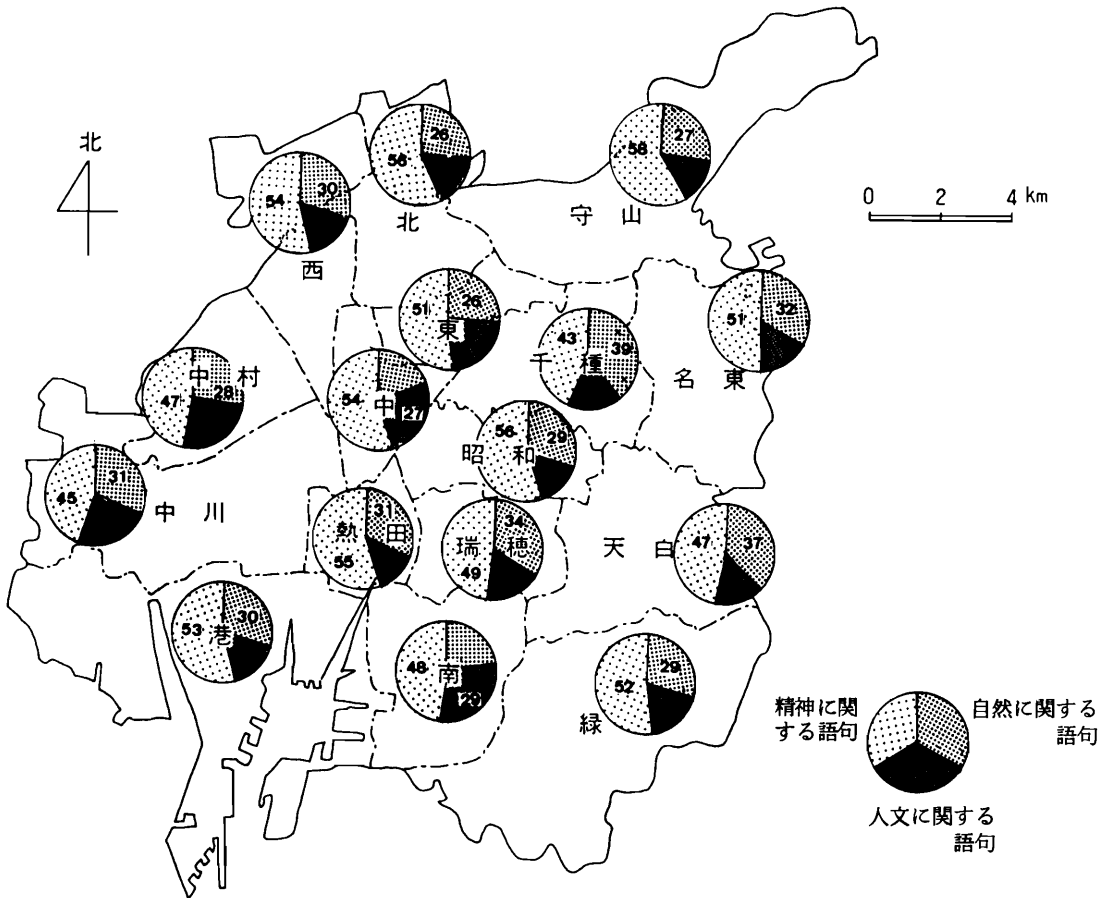


図7 名古屋市の小・中学校校歌詞に含まれる自然・人文・精神に関する語句の割合(%)



自然・人文・精神に関する語句の割合を16の行政区別に表したものである。この図から、精神に関する語句がほとんどの行政区で50%以上を占めていることがわかる。これは先の図1にも示したように、大都市の名古屋は、愛知県全体の中でも特に精神的語句の挿入率が高かった(51%)ことから明らかである。また、反面、自然に関する語句の割合は低く、29%と最低であった。このことから、名古屋市在校歌は、都市型であるということは言うまでもない。しかし、この中にあって、中川区、千種区、および天白区では50%を割っている行政区もある。特に千種区は、43%と最も少なく、反面、自然に関する語句は、16の行政区の中では一番高く、39%を示しているのは貴重な存在である。一般的に見て、自然に関する語句の割合が高いのは東部丘陵沿いであり、自然環境に恵まれていることを示している。これに対し、守山区・北区・昭和区・熱田区では精神に関する語句の割合が高く、特に守山区では58%にも達している。また、人文に関する語句の割合が高いの

は、中区と西区であり、南区では29%に達しており、精神的語句を上回る。

(2) 名古屋市の分類挿入語句の行政区別割合  
a. 人文

名古屋市における校歌詞の人文に関する語句の割合を図8に示す。人文に関しては、中区と南区を除いて、他の挿入語句の中でも低い割合を示す語句である。愛知県と比較して名古屋市の人文に関する上位5つの語句の違いは、「田」が変わって「城」が挿入されていることである。その特徴を探ってみると、東区と千種区では「学び舎」の挿入率が高く、天白区と熱田区では「窓」が40%以上も含まれている。また「街・町」に関しては、北区・昭和区・瑞穂区・中川区が30%以上を示す。さらに、名古屋市の特徴的な人文的語句である「城」は、西区が21%、熱田区が20%、中村区が14%の順となっている。

b. 精神

名古屋市における精神に関する割合の高い語句(図9)は、愛知県と同じ「学ぶ」・「明るい」・

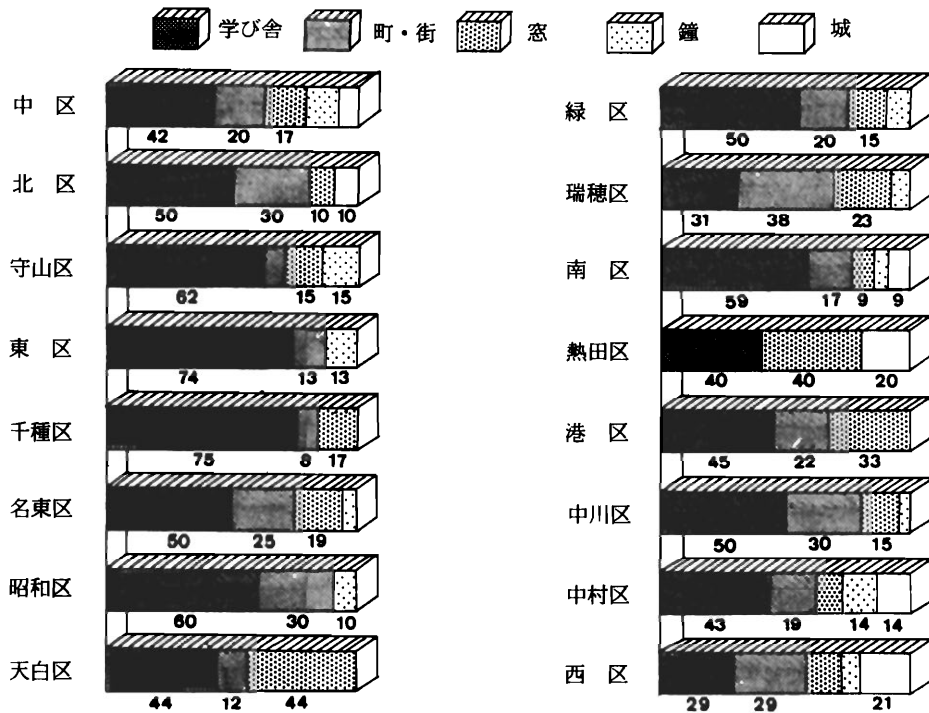


図8 名古屋市における校歌詞の人文に関する語句の割合 (%)

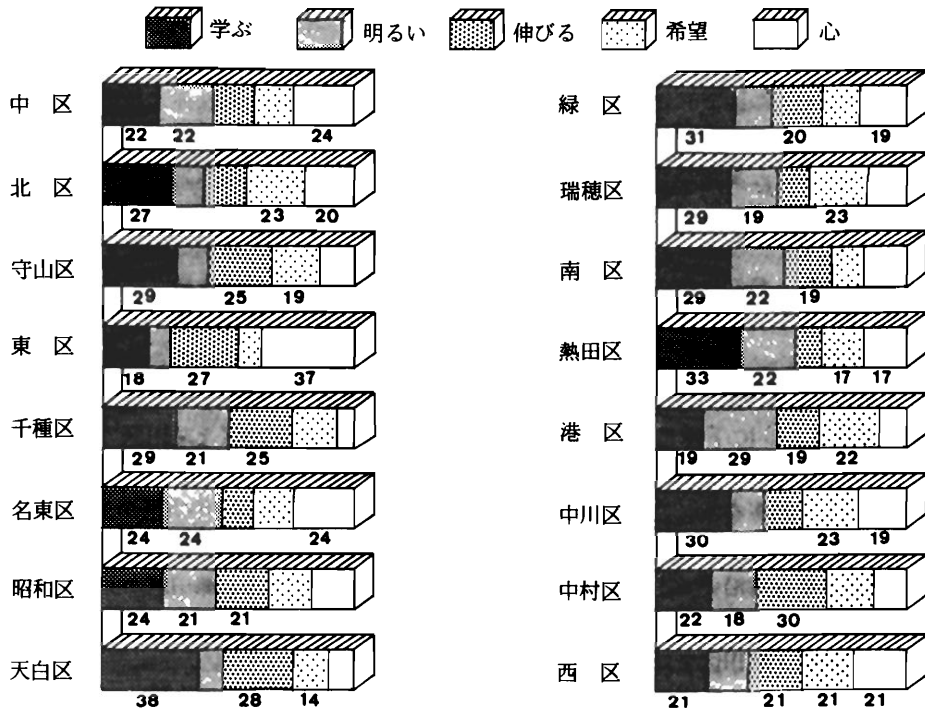


図9 名古屋市における校歌詞の精神に関する語句の割合 (%)

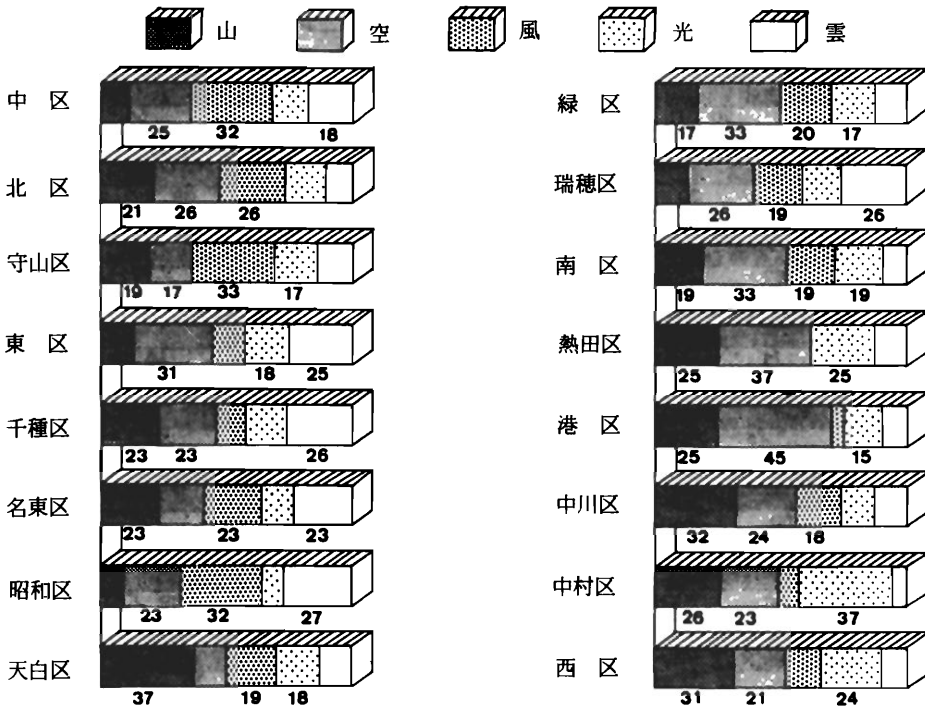


図10 名古屋市における校歌詞の自然に関する語句の割合 (%)

「伸びる」・「希望」・「心」である。これらの語句の挿入割合にさほど地域差が見られないのは精神的語句の特徴でもある。そこで、30%以上を占める割合を持つ語句について検討すると、「学ぶ」では天白区・緑区・熱田区・中川区である。また、「伸びる」の中村区、「心」の東区が印象的である。東区は、反面「明るい」の語句の挿入率が著しく低いのも特徴的である。

#### c. 自然

自然に関する語句は、名古屋市では地形と気候を含めて分類した。その結果、「山」・「空」・「風」・「光」・「雲」が選出できた(図10)。名古屋市は、自然に関する語句が他の地域に比較して最も少ない特徴を持っている。このため、あえて地形と気候を分けなかったのである。

この図から、「山」の挿入率が高いのは天白区(37%)と西区(31%)であり、「空」は港区の45%を筆頭に熱田区の37%、緑区の33%の順である。「風」は中区・守山区・昭和区に高く、30%以上を示している。また、「光」に関しては中村区の37%が特に高く、次いで熱田区の25%である。これに対し「雲」は、東区・千種区・昭和区・瑞穂区で高く、25%以上を示す。この「光」と「雲」との間には、逆相関関係が見られることは、校歌詞と言えどもまさに気象状態を反映しているようにも思えてならない。なぜならば、「雲」の挿入率の高かった東区から瑞穂区にかけての地域では、夏の日中において海風前線が形成される地域であり(大和田編, 1980), 雲が多いことも科学的に実証できるのである。

#### IV あとがき

この研究は、気候環境研究会(代表大和田)の校歌詞研究部会が中心となって作業を続けてきたものをまとめたものである。したがって、研究者5人の中で、地理学関係は代表者を含めて2人、音楽関係が3人という異例のメンバーである。また、校歌詞を収集してから語句の抽出と分類、整理、作図に2年余りも経過しているのである。校歌詞研究部会が発足した当時には、代表者を除いて4人とも独身であったが、その間2人が結婚したにもかかわらず研究を続けた。この種の研究は、

我が国ではほとんどなされておらず、参考文献もないのが現状である。まさに研究者一同暗中模索で作業を進めてきたのである。しかし、我々は、なんと少しでも校歌詞の意義を見出したかったのである。もちろん校歌詞が、他の地域の作詞者であったり、地域を反映していない校歌詞があったとしても、これだけ一般的であり、どこにでもある校歌詞が、なんの意味も持たずに、ただ学校の校名と同じように作られているとは思いたい。しかし、この研究から明らかなように、愛知県を例にあげただけでも、これだけ小・中学校校歌詞が地域環境を反映し、さらに名古屋市という一都市の中だけでも気象現象との一致が見られたのである。

今後は、校歌詞をただ分類したというだけでなく、地域学習や環境教育、および音楽教育にいたるまで、幅広く考察を進めていきたいと考えている。

#### <参考文献>

- 大和田道雄編(1980):「名古屋の気候環境―暑さ寒さの原因を探る―」。荘人社, 1~181。  
 大和田道雄・菅政子(1982):「環境教育への気候学のアプローチ―愛知県尾張地方の校歌と気候風土―」。愛知教育大学教科教育センター研究報告, 6, 87~100。  
 東洋経済出版社(1980):「愛知の学校・校歌詞総覧」。